



熊本植木市で求めた沈丁花。香りと花が楽しめます(6日・境内)

慧 光

金光寺寺報
第141号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

参れると思つて 参れぬお浄土へ 本願力にて往生す
(稲垣瑞剣)

三月の法語は、稲垣最三師(法名・瑞剣)のお言葉です。浄土真宗のみ教えに、そして教義の奥義に研鑽を積み、仏法伝道に一生を捧げられました。そして多くの著述、信心発露する詩歌を著わされ、多くの門信徒に他力の教えを伝えられました。

瑞剣師は、毎月の法座などで「本願力にて往生す」と、つねづね口癖のように語られて、本願力のおはたらきについて説き続けられました。

阿弥陀さまは、あらゆる生きとし生けるものを助けなければおかぬという本願をたてられ、完成して下さった。その阿弥陀さまの智慧と慈悲の円満した功德の力を私たちが信ずるところ、すなわち本願力を信ずるところに、無量の功德が私たちのいのちとなり、往生する種となり、浄土往生の救いが実現する。このように、阿弥陀さまの大

智慧のおはたらき、大慈悲のおはたらきが本願力となって、この「私」にはたらいてくださっている、それゆえこの本願がありがたい、と示されています。

煩惱具足の凡夫として、あるいはこの迷いの世界にある人間として、自分中心の思いや自らのほからいから離れるということは、不可能なことといえるでしょう。釈尊ご自身がそのようにご教示くださっており、また阿弥陀さまの大慈悲心も、そのような凡愚のものであるとお示しくささって、大悲のおはたらきをこの「私」にはたらかせてくださっています。「私」の方では、わが身を慚愧する以外に、大慈悲のおはたらきをそのままに受けさせていただき、たよりとさせていただくばかりなのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

金光寺よろずコーナー



上記の写真、ローソク立てに立っている赤いものを木燭(もくろう)といいます。普段、ローソクを灯さない時に立てるものです。(作法上そう決まっています)未使用のローソクや使用しているローソク、或いは何も立ってない状況よりかっこいいと思いませんか。一寸で1300円くらい。仏壇店にあります。

2月、金光寺ご門徒の次の方がご往生なさいました。さとの智慧をいただかれ尊いお導きをと念じることです。
2013年2月11日寂 満79歳
倉本松本洋子様
2013年2月18日寂 満95歳
笠部藤本ナツエ様

ホームページ開いています。
URL /konkhoji.jp/
3月6日現在 入室者数 15,018人

仏教用語豆辞典

教授・講師

前に「学生」を紹介しましたので、今回は、大学の先生がたの番です。仏教では、教授とは、法を教え道を受けることをいいます。仏教の入門式である具足戒を受けるときには、三師七証といっ

て、三人の師匠と七人の証人が必要です。その三師の一人に、教授阿闍梨とか教授師という師匠がいます。これは戒場で受者に行儀や作法を教える役です。「五分律」に「具足戒を受くるの時、威儀法を教うる、是を教授阿闍梨と名づく」とあります。講師は、僧尼を指導し、仏教を講説する僧です。もとは、国師と呼ばれていました。国ごとに一名ずつ任命され、

国分寺でもつばら經典の講説にたずさわっていました。天台宗では、論議のとき問者の質問に答える人のことです。現在では、教授も講師も学生も、大学の先生と生徒のことを指しますが、本来は、仏教を教え、仏法を講説し、仏法を学問する人なのです。

(本願寺出版社発行)

「仏教用語豆辞典」一〇〇

パート1から)

住職ひとりごと

少しづつ春めいてきました。暖かいので、草引きをしています。境内にフクジュソウが三株咲いているのに気づき、思わずうれしくなりました。枯らさずに育てたいな、増えればいいなと思いにやにや。周りから見ると変人、と思われてもいけないので、気持ちを取り直して草引き再開となりました。熊本の春の植木市に一回行きたいなと思っていたのですが、思いがけず実現しました。というのは、息子の花粉症対策に空気清浄器を届けに行き、夕飯を一緒に食べ帰宅。帰り着くと携帯電話を忘れていることに気づきそれから翌日取りに行くことになりました。た。ただ行くのももつた。たので、植木市に寄ることになったのです。携帯を忘れて坊主と息子には非難されましたが、私的には良かったと思つてます。高的には良かったと思つてます。ろには終わつています。中学校に面接指導に行つたので結果が合格できると思います。みんな志望校に

(住職 松井卓郎)

いじめを思う 2

先月に続き、いじめのことを考えてみたいと思います。

まず、いじめとは関係ありませんが阿弥陀さまの智慧と慈悲について少し触れたいと思います。

阿弥陀さまは智慧と慈悲が完成した仏さまです。また、阿弥陀さまの浄土は智慧と慈悲がまどかにそなわっている世界です。

では、智慧とは？智慧とはあらゆるものの本質を知り尽くすはたらきのことです。

慈悲とは？慈悲とは煩惱に苛まれてるものを損め取らずにはおかないというはたらきです。

智慧・慈悲は、いずれもはたらきですから、阿弥陀さまとそ

のお浄土は常にはたらいています。

さて、いじめの問題に戻ります。私たちは死ぬまで煩惱から離れることはできません。従って、阿弥陀さまのように完成された智慧も慈悲も持ち合わせていません。当然、学校の先生や私たち大人はいじめの加害行為をしている子ども表面に出ているその行為のみに対して指導したり、責めたりしてしまいがちです。その子の本質について知り尽くすことができないからしょうがないのではないのでしょうか。

だとしても、いじめという行為を放置してはおけません。

先月号にも書きましたが、私たちはいじめを受けている被害

者にも悪いところがあるとないがちです。しかし、いじめを受けている被害者には責任はないのです。

私たちが加害行為をする子どもに対して発する「自分がされたいやでしよう」という言葉はその子たちには届きません。

加害行為を繰り返すと、相手が傷つくことが快感になってしまいう状況が存在するのです。

いじめはいじめをする子どもたちの問題です。当り前のことですが、加害行為をやめた時、いじめ問題は解決するのです。

被害者はおちろんですが、いじめ行為をしていた子どもは傷ついたら心も回復へと向かわせることができます。

いじめ加害者も幸せに生きなければならぬんです。人間の尊厳、尊いいのちの存在さえも脅かしていた愚かな行為に気づいて、人間は平等に生きていく権利がある、お互いが支えあつていかなければ生きていくこと

はできない、そんな大事なことに気づいて、今後の人生を幸せに生き抜かなければならぬのです。いじめは、いじめ加害者の心の問題だと思えます。

冒頭に触れた阿弥陀さまの慈悲。煩惱に苛まれたものを損め取らずにはおかないはたらき。そんな完成された慈悲は持ち合わせていない私たちですが、少しでも周りの人に寄り添う、相手の立場を思う、そんな優しい心を持ちたいものです。

人は人と出会い、つながりながら生きています。だから、私たちは「人間」という言葉を使います。「私たち人間」とは言いませぬ。私たちは人と人との間で生きています。死ぬまでそのコミュニケーションの中で生きていくのです。だからこそ、相手を思いやる優しい心が必要なのです。

力を合わせ「いじめのない社会」を目指したいですね。

法語の世界

〈原文〉

仏説に信謗あるべきよし説きおきたまへり。信ずるものばかりにて謗する人なくては、説きおきたまふこといかかとも思ふべきに、はや謗するものあるうへは、信ぜんにおいてはかならず往生決定との仰せに候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 百五十三)

〈現代語訳〉

「念仏の教えを信じる人もいれば謗する人もいると、釈尊はお説きになってる。もし信じる人だけいて、謗する人がいなかったなら、釈尊のお説きになったことは本当なのかと思ふであろう。しかし、やはり謗する人がいるのだから、仏説の通り、本願を信じる人は、浄土に往生することが確かに定まるのである」と、蓮如上人はお説きになりました。

〈用語の解説〉

信謗……仏法を信じるものとそしる者。

二〇一三年春季彼岸会法要のお知らせ

期日	場所	講師
三月二〇日 午前九時三〇分	金光寺本堂	正信念仏偈(草譜)・六首引き 眞楽寺(日之影町)衆徒
		浄土眞宗本願寺派布教使 竹井豊実 師

その他 お参りの際は、式章・念珠・お経本をご持参ください。彼岸会法要は仏教婦人会の例会になっています。仏教婦人会会員の皆さんはご参詣ください。会員以外の皆さんの参詣もお待ちしております。

仏事お休みのお知らせ

下記の日はお葬式以外の仏事は行いません。ご協力ください。

記	期日	事由
	3月	
	20日	彼岸会法要
	24日	私用(高校用務)
	4月	
	27日	私用(高校用務)
	5月	
	4日	私用(親戚用務)
	6月	
	15日・16日終日	私用(高校用務)